

2月7日(金)11:00～ 東京芸術劇場 プレイハウス

ヴァイオリンってなに? キッズから”はじめる”クラシック

～5歳以下は550円コンサート!～

ヴァイオリン珠玉の名曲選。5歳以下は550円で入場できるコンサート。もちろん大人も大歓迎!
奥村愛(ヴァイオリン・お話)／加藤昌則(ピアノ)／おんのすけ(キャラクター)

全席指定 6歳以上=2,550円 5歳以下=550円 *ひざ上のお子さまは無料



奥村愛



加藤昌則

曲目/解説

アンダーソン：フィドル・ファドル

ライト・ミュージックのショーピースとして非常に有名な作品です。ルロイ・アンダーソン(1908～1975)は、米国マサチューセッツ州の出身で、ハーバード大学に学び、クラシック音楽とポピュラー音楽を融合した作品の数々を量産、大変な人気作曲家となりました。ヴァイオリンの一種である「フィドル」と、から騒ぎを意味する「ファドル」をあわせた「フィドル・ファドル」という標題が、ヴァイオリンが愉快地に動き回るこの曲をすべて物語っています。主旋律は、初演された1947年当時から英国圏では大変よく知られていた童謡「スリー・ブランド・マウス」から採用されていて、アンダーソンらしい機知と工夫がそこかしこに光ります。

エルガー：愛のあいさつ 作品12

英国の国民的作曲家、サー・エドワード・エルガー（1857～1943）が、1889年、婚約者のキャロラインに贈った可愛い独奏ピアノ小品で、作曲者自身が編曲したヴァイオリン版、オーケストラ版をはじめ、多くのアレンジが存在します。当時、裕福なキャロラインの両親は、無名の青年作曲家との結婚に断固反対していたとのこと。将来の妻に捧げた感謝の気持ちが生かされています。

ヴェータン：ヤンキードゥードゥル風アメリカの思い出 作品17

1843年、ベルギー人の偉大なヴァイオリニスト、アンリ・ヴェータン（1820～1881）が米国を訪れた際、当地の民謡「ヤンキードゥードゥル」を変奏曲風に編曲した。日本では「アルプス一万尺」という替え歌の方が有名ですね。段々スピードアップして、目にも止まらないようなヴァイオリンの妙技となります。

ヴァイオリンについてのおはなし

みんなで作曲コーナー

アブレウ（加藤昌則編）：ティコティコ

ブラジル初期のポップス音楽に「ショーロ」があります。ブラジルの民族音楽にヨーロッパのワルツ等のダンス音楽を加味したのがルーツだそうです。その大ヒット作「ティコティコ」は、原題を「ティコティコ・ノ・フーバ」といい、サンパウロ近郊出身のゼキーニャ・ジ・アブレウ（1880～1935）が、踊るような姿で粉をついばむ雀たちを見て着想しました。映画、テレビから運動会まで、いろいろな場面に登場する名曲です。加藤昌則（1972～）の軽妙なアレンジをお楽しみ下さい。

クライスラー：愛の喜び／愛の悲しみ

ウィーン生まれの名ヴァイオリニスト、フリッツ・クライスラー（1875～1962）の代表作。いずれも典型的な三部形式のワルツで、多くの場合2曲続けて演奏されます。クライスラーは、こうした愛らしい小品を数多く作曲し、いまでも世界中のヴァイオリニストの大事なレパートリーとなっています。1923年、一度だけ来日公演を行い、チケット争奪戦が起こったそうです。

クライスラー：前奏曲とアレグロ

クライスラーは、18世紀や19世紀の先輩方の様式や旋律を借りたアレンジ作品をたくさん書いています。この曲の原題「プニャーニの様式による前奏曲とアレグロ」のプニャーニとは、イタリアのヴァイオリニスト、作曲家のガエターノ・プニャーニ（1731～1798）を指し、当時のバロック様式をクライスラー自らの審美眼で捉え直したユニークな傑作です。重々しいバロック風の前奏曲と技巧的なアレグロの対比が鮮やかです。

お問い合わせ：チケットスペース 03-3234-9999（月～土10:00～12:00／13:00～18:00）

※料金は全て税込・全席指定となります。

※やむを得ぬ事情により、出演者、曲目に変更が出る場合がございます。